



今回の展覧会は、菊見吟子さんによる陶芸の個展です。会場に入ると、まず目に入ってくるのは、たくさんの鮮やかな色。赤や青をはじめとする様々な色と共に、金や白金の煌びやかな色彩も加わり、艶やかな布や糸、金属といった異素材の要素を併せ持つ新しい印象の作品です。

作品の表面は、泥と顔料を混ぜたものを何度も塗り重ねられているので、ぷっくりと立体的に、そして色鮮やかに発色していて、見ても触れても楽しめます。

女性の女心や男女の愛憎といった、微量の毒やスパイスを利かせたものをテーマに制作された菊見さんのオブジェ作品は、日本の伝統的なシンボルである富士山や波模様、着物といったものを主なモチーフに手びねりで造形されています。柔らかさ、硬さ、弾力、ひねりなど、様々な要素を感じさせる手びねりならではの有機的なラインが生き、特にドレスや着物のひだの凹凸が細かくつけられているところは必見です。

また、それぞれの作品に描かれた模様が美しく、細部に至るまで丁寧に制作されているところに高い美意識を感じます。

日本の伝統的な模様を使いながらも、鮮やかな色彩と手びねりによる自由な造形に、日本の伝統とこれからの陶芸の可能性を感じる、唯一無二の作品展でした。

菊見吟子 KIKUMI GINKO

めくるめ
目眩く 陶の色彩展

2016年 4月28日(木)～5月3日(火)

